

見よ。わたしは、あなたの前に門を開いておいた。

だれもこれを閉じることにはできない。

あなたにはほとんど力はなかったが、わたしのことばを守り、わたしの名を知らないとは言わなかったからである。(黙示録3の8)

I have placed before you an open door that no one can shut. I know that you have little strength, yet you have kept my word and have not denied my name .

私たちの生きる道においては、さまざまのものが立ちほだかる。そして身近な家族、職場にも深刻な問題が生じることがあり、また時の政治や社会状況によって迫害などの厳しい事態となって生きることさえ困難な状況にも置かれることがある。そして歩む道が閉ざされ、進むことができなくなる。また病気や突然の事故によって、それまで生きてきた仕事や人間関係も大きく閉ざされてしまうこともある。さらに、老年となると、さまざまのことに於いて大きな制限が生まれ、次々と閉ざされていく。

それにもかかわらず、いかなる状況においてもなお、私たちの前途はそれらによっても閉ざされない祝福された世界への門が開かれているという。黙示録とは、ローマ帝国によるきびしい迫害の時代に書かれたものであり、ただ神とキリストを信じるだけで、捕らわれ命の危険にさらされて殺されていく人たちも数多くいた。そうした国家的な権力によっても閉ざすことができない門があるといわれている。

じっさい、そうした苦難のなかにあっても、啓示によって、その門に至る道が示され、神の国への門が開かれているのをはっきりと 見る事ができた人たちが次々と起こされ、キリスト教は伝わって行った。

現代の私たちにおいても、さまざまの苦難があるが、いかなる状況になっても、究極的な良き世界—神の国への道はこわされることなくそこに入る門は、信じるものには常に開かれており、そこへ入るようにと招かれているのである。

また、神の言葉—福音による救いも、日本においてはとくに閉じられていて受けとる人はごく少ない状況が続いている。しかし、福音が広がっていくための門は、2000年来、あらゆる国民につねに開かれており、神はその御計画にしたがって、み言葉を受けとる人たちを起こされてきたし、今後もそのようになるであろう。

そして、毎日の生活にあっても、青い空、白い雲、星空などの自然や、日常の小さなできごとの一つ一つから、そして聖書の多様な言葉から、清められた神の国への道が続いており、また開かれた門があるのを感じさせてくださる。

預言者イザヤも、そのような道を示されていた。「そこに大路があり、その道は聖なる道となえられる。」(イザヤ書35の8)

そしてその目には見えない門をとおって、御国からの清められた風が吹いて来るのを受けとることができる。



これは、高さ5 cmほどの小さな植物ですが、草ではなく、ツツジ科の常緑小低木。ほかにエゾツツジなども草のように見えて低木のものがあります。これらは高山の厳しい寒さや風雪に耐えることができるように造られているのです。ツガとは、針葉樹で高さ30mもの大木になりますが、その葉に似ていて、桜のように美しいこと、千島列島やアラスカ、日本では、東北の一部の高山と北海道の高山に見られることからこの名があります。 つぼみのときには赤く、開くと白い花びらと雄しべが目立つ花で、寒冷地の高山での短い夏の間には花茎を伸ばし精一杯の力でさいているように感じます。

下の写真は、この花が咲いていたところから、頂上付近を撮影したもので、雪もまだ多く残るところです。チューリップなど園芸植物は大切に育てても翌年には小さくなったり、だんだん咲かなくなかって消えてしまうことが多いのですが、このような高山植物は、過酷な自然条件にあっても、はるかな昔からこのようにいっさいの人間のケアを受けないで育ってきたのです。

神ご自身が不思議な方法で植え、守り育てたものと言えます。私たちも、神の守りと導きがあれば、困難な状況にあっても、よきものへと成長していき、花を咲かせ実を結ぶことができるのだと思わせてくれます。 (文・写真ともT. YOSHIMURA)



(大雪山・赤岳)